

WEEKLY SIGNAL

平成28年9月9日(金) 1340号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	9/12 (月)	9/13 (火)	9/14 (水)	9/15 (木)	9/16 (金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 1,200	+ 1,000	ト ン	△ 1,000	△ 2,000
財政他	△ 23,200	ト ン	△ 2,000	△ 13,000	+ 2,000
資金需給	不 22,000	余 1,000	不 2,000	不 14,000	ト ン
主な要因	国庫短期証券発行・償還 (3M・6M) 10年物価連動国債償還		源泉税揚げ	国債発行・償還(2年)	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,900 国債補完 + 200 CP等買入 △ 200 社債等買入 △ 100				貸出増加支援 △ 8,400
オペスタート	共通担保(全店) + 2,000	短国買入 + 12,500 国債買入 + 8,900			
(日本)	機械受注(7月) 企業物価指数(8月)	法人企業景気予測調査 (7-9月期) マネタリーベース(7月) 日銀営業毎旬報告 (9月10日現在) 日本銀行が保有する国債の 銘柄別残高 日本銀行による国庫短期 証券の銘柄別買入額	貸出増加支援資金供給 貸付実施の通知日 (9月16日貸付)	対外対内証券売買(前週分) 被災地金融機関支援オペ 貸付実施の通知日 (9月23日貸付)	業態別の日銀当座預金 残高(8月)
(海外)	米 プレイナートFRB理事講演	米 財政収支(8月)	米 輸入物価指数(8月) 欧 鉱工業生産(7月)	米 経常収支(4-6月) 米 小売売上高(8月) 米 新規失業保険申請件数 (10日終了週) 米 生産者物価指数(8月) 米 ニューヨーク連銀製造業 景況指数(9月)	米 CPI(8月) 米 シカン大学消費者 マインド指数(9月速報値) 米 家計純資産(4-6月) 米 対米証券投資(7月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.06 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.06 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.06 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.07 ~ 0.001

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.300 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初300兆3,600億円から始まり、国債買入・国庫短期証券買入オペなどを要因に、週末には304兆3,700億円となった。無担保コールON物は、週を通して△0.08～△0.02%で出合いが見られ、同加重平均金利は△0.047～△0.045%のレンジで推移した。ターム物は、8月積み期内をエンド日とする1W物を中心に△0.03～△0.02%のレンジで出合いが見られた。

ECBは8日の理事会で月間800億ユーロの資産買入について2017年3月まで続けることを決定し、期間の延長は見送った。またドラギ総裁は理事会後の記者会見で「理事会は当該委員会に対し、買い入れプログラムの円滑な実施を確実にするための選択肢を検討するよう指示した」と述べた。

日銀は9日、当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率(2016年9月～11月積み期間適用分)を10.0%に定めた。来週の予定は、国内では日銀営業毎旬報告(13日)や業態別の日銀当座預金残高(16日)、海外では米国財政収支(13日)や米国小売売上高(15日)、米国CPI(16日)などが挙げられる。

<CP>

今週の入札発行額は約3,600億円で、期落ち額約5,200億円(金融機関・ABCP除く)下回った。カード会社の大型案件が継続されず、発行量が盛り上がらなかった。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。現先レートの中心は、-0.100%～0.000%程度で推移した。来週の期落ち額は9,100億円程度となっている。

<TDB>

8日に国庫短期証券3M第632回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.2645%(前回債△0.2304%)、平均落札レートは△0.2817%(同△0.2425%)と前回債と比べて利回りは低下した。セカンダリーは3Mで△0.30%近辺の地合いとなっている。6Mは△0.30%近辺の地合い、1Yは目立った出合は見られなかった。来週14日に1Y、15日に3Mの入札が予定されている。

<レボ>

足許GCは先週末に引続き△0.09%台の取引から始まり、週央には△0.10%台の出合い。短国の3M・6Mの発行日となる12日受渡では、週初と同水準の△0.09%台に戻った。週末には国債・短国買入れオペが2兆1,400億円オファーされるもレート水準に大きな変化はなく△0.09%台で取引され、越週した。SC取引では、2年367回債と10年343回債は週を通して深いネガティブレートで取引され、△0.40%台の出合も多く見られた。また10年341回債が7日の国債買入オペ後ビッドが増え、タイト化した。他では5年126・127・128回債、10年340回債、20年155・156・157回債、30年50・51回債などに引き合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。